

Das, A. C. 1962. New species of *Thielavia* and *Sordaria*. Trans. Br. Mycol. Soc. 45: 545-548. Hawksworth, D. L. 1979. Ascospore sculpturing and generic concepts in the Testudinaceae (syn. Zopfiaceae). Can. J. Bot. 57: 91-99. — & C. Booth. 1974. A revision of the genus *Zopfia* Rabenh. C. M. I. Mycol. Pap. 135: 1-38. Malloch, D. & R. F. Cain. 1973. The genus *Thielavia*. Mycologia 65: 1055-1077. Shearer, C. A. & J. L. Crane. 1980. Taxonomy of two cleistothecial Ascomycetes with papilionaceous ascospores. Trans. Br. Mycol. Soc. 75: 193-200. Ueda, S. 1981. A mycofloral study of marine sludges in Nagasaki, Japan. Proc. 25 th Ann. Meeting Mycol. Soc. Japan. p. 73.

* * * *

上田は数年来、長崎県内の水圏底質について環境汚染との関係から菌類相を研究してきたが、1980年に長崎湾内の海泥から *Thielavia* 様の不整子のう菌類 2 種を分離した。詳細に検討した結果、これらはそれぞれ *Eremodothis angulata* および *Apodus oryzae* と同定されたが、両種とも最初に分離報告後、再び得られていない稀産種であり、かつ分類学的位置づけの不十分なところもあったので、報告することにした。

Eremodothis angulata は当初 *Thielavia* として報告されたが、その後 von Arx によって子のうが二重壁構造であることが指摘され、新属 *Eremodothis* に移された。その分類学的位置については、これまで必ずしも十分に論議が尽くされず、ドチディア目スポロールミア科に近いものとされるに止まっていた。著者らは本種がテストディナ科の *Neotestudina* あるいは、その近縁のプレオスポラ科に属する *Lepidopterella* などと子のう胞子の性質が子のう中での形成過程を含め非常に類似し（いずれも角形）、またこれらの菌類では 28-37°C の生育適温が特性であることも考え合せ、本種をテストディナ科に加えるとの意見を提案した。

Apodus oryzae は一見 *Thielavia* 様の子のう胞子を形成するが、子のうは円筒形で、先端に環状構造があり、明らかにソルダリア科の菌類とみなされる。本種の子のう胞子は稀に 1 隔壁が認められるものの、大部分は単細胞である。

□兵庫生物学会編：播磨の植物 神戸新聞出版センター，347 pp. 1981. ¥1,300, すでに「兵庫の自然」正，続，新を出版して県下の生物の紹介と知識の普及につとめてきた同会が、県下最大の地域である播磨の植物について、会員46名の協同執筆によってまとめたものである。内容は観察地の案内、珍植物の発見記、有用植物の紹介、方言、民俗、名木のいわれなどまことに多彩で、顕花植物はもちろん、シダ、コケ、菌、藻すべてにわたっている。当地の植物事情を知るうえで研究者にとって有用であるばかりか、一般向きにも楽しい本である。

(金井弘夫)